



# Chefoo だより No.29

2014/06/30

～感謝～

宣教師の子供たちの寄宿舎として建てられた旧チーフスクール、戦前中国の山東省の港町にあったといわれております。先日、最近町内に引越されてきた、あるご婦人が来校し子供の頃そのチーフの町に住んでいたとのこと、とても懐かしいと話しておりました。

また、隣接する七飯福音キリスト教会で行われた、森下師による三浦綾子文学記念講演会でも、その昔夫妻がこのチーフスクールを訪ねてくださった時の写真も話題になりました。感謝な出来事として記憶にとどめておきたいと思っております。

ささやかでも地域に愛されながら、福音の香りと主の栄光を灯し続けていきたいと思っております。2013年度の決算報告をご覧ください。過日(4/13)定例年次総会にてご承認をいただきました。主でありまして、皆様からのお祈りとご支援そしてご配慮を、心より感謝を申し上げます。

消費税増税に伴う、諸物価高騰の折大変恐縮しますが、引き続きチーフスクールの為にお祈りとご支援をお願いいたします。

校長



		2013年度予算	2013年度実績	%
収入の部	一般献金	2,000,000	1,992,928	100
	慶祝献金	10,000	24,920	249
	入學献金	39,000	59,000	151
	学習献金	633,600	680,500	107
	特別献金	100,000	140,200	140
	集金献金	7,000	8,000	114
	宿泊献金	60,000	41,400	69
	暖房献金	31,200	39,200	126
	食事献金	222,000	233,050	105
	雑収入	30,000	19,475	65
	融資金		0	
② 小計	3,132,800	3,238,673		
③ ①+②	3,492,795	3,598,668		

		2013年度予算	2013年度実績	%
支出の部	修理・修繕費	50,000	20,400	41
	施設管理費	180,000	62,297	46
	備品購入費	20,000	97,306	487
	事務管理費	88,000	82,849	94
	消耗品費	32,000	18,714	58
	衛生費	5,000	10,786	216
	光熱水費	700,000	751,026	107
	会議接待費	5,000	2,767	55
	教材費	5,000	9,440	189
	通信費	100,000	92,001	92
	図書費	5,000	2,730	55
	キッズ費	30,000	31,405	105
	行事礼典費	30,000	6,600	22
	研修費	10,000	0	0
	謝儀・人件費	1,576,000	1,556,800	99
	広報渉外費	50,000	49,706	99
	給食費	203,000	239,150	118
保険費	65,000	61,530	95	
雑費	20,000	9,094	45	
予備費	318,795	18,000	6	
④ 当月小計	3,492,795	3,142,601	90	
次月繰越(③-④)		456,067		

発行：チーフ・キリスト教学園  
 〒041-1111

北海道亀田郡七飯町本町6丁目7-31チーフキリスト教学園

TEL: (0138)64-4177 FAX: (0138)64-4177

E-mail: chefoo77@ms5.nv.n.jp

ホームページ: http://www5.nv.n.jp/~chefoo77/

郵便振替: 02780-4-78509

※学校見学はいつでも大歓迎です。宿泊をご希望の方は、事前にご連絡下さい。

## 【教育目標】

聖書に基づく人格教育 次代を担い得る人材の育成 国際化時代に即応する能力を育む

「御霊(みたま)の実」

マ書8:2)

「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。」  
 (ガラテヤ書5:22-23)

チーフスクールは、初夏真っ盛りです。前庭には西洋タンポポが咲き乱れ、幼児が戯れ、周囲の木々は濃い深緑に覆われて参りました。木漏れ日から覗くウグイスの輪唱、その景観はまさに「森の中の学舎」です。一年でもさやかかな気候で恵みと祝福に満たされた時節の到来です。校舎はイギリス人宣教師の手による築50年ほどの古い建物ですが、年々修繕を必要としながらも日々の活動には支障なく使用しております。(若干簡易の宿泊施設も整っておりますので、どうぞ、両館観光や道南のご旅行の際にご利用下さい。)

さて、冒頭の聖句は有名なみ言葉ですが、ややもすると行き過ぎた道徳主義や律法主義に捕まってしまう落とし穴があります。「熱心さ」と「純粋さ」を御旗に、もっと神様を喜ばせようとして立派なクリスチャンとして頑張ります。しかしその結果、疲れ果ててしまい自分がいやになり、また隣人を裁く恐れがあります。本当の恵みの中は、生きる自由なクリスチャン生活とは、肉なる生活からの解放です。「なぜなら、キリスト・イエスにある、命のみ霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」(ロ

信仰生活は自然体の歩みの中で、聖霊によって結ばれてくる実ですから、幼児には幼児期の、青春には青春時の成長があります。信仰生活1年の人には1年、5年の人には5年、50代、70代、90代には、それなりに聖霊の実の結び方が生じてきます。人生の様々な局面においてもまた変わってきます。どんなに私のできが悪かろうと、成長が遅かろうと、実がなるまいと、それで神様は私たちを切り捨てたり、祝福を減らしたりしません。弱いものほど、衰えていたものほど、実を結べないものほど、神様は私たちを大切にしてくださり、恵みを増し加え、神の愛は増し加わります。(第2コリント12:9)

この十字架の本質を私たちはしっかりと捉え、焦らず、頑張らず、あるがままの信仰で十字架を見上げ、み霊の実が私たちの内側に結ばれていくことを信じ、喜びと感謝を持って歩む者でありたいと思っております。(参マタイ5:1-12)

チーフスクールは、まさに教派を超えて10数年にわたって実証されてきた皆様の「み霊の実」です。

主であり、心より感謝とお礼を申し上げます。

校長 庄司 信雄

## 「失敗から学ぶ」旧約篇／シリーズ1

## —アダム—

アダムは神によって、人間として最初に創造されるという特権と榮譽に与る事が出来た。その目的は「神の栄光を現わすためであった」(イザヤ 45:7)。またそのために、彼がなすべき仕事や使命を初め、彼に必要な食物から伴侶に至るまで、神は全てを備えて下さった。

また神は創造されたエデンの園の中央に「善悪の知識の木」を置き、その木の葉を食べる事を禁じ「それを食べるその時、必ず死ぬ」と戒められた(創世記 2:12-17)。これはアダムが神による被造物であって、神の御言葉に従順に従う事によって、初めて彼が、その使命を達成し、また真に幸せに生きる事が出来る事を、彼に自覚させるためであった。

1. アダムの失敗とその結果～ところが、  
a. 神の御言葉に背く～神がアダムの伴侶として与えたエバが、蛇の誘惑に陥り、禁断の木の実を食べ、またそれをアダムにも与えたので、アダムも食べて、二人とも神の御言葉に背いて罪を犯した。

その墮罪の結果、(1)神との断絶、(2)女の出産の苦痛と夫婦間の亀裂、(3)労働の代価の些少、(4)死の不可避(創世記3:8-19)。

そして、創世記の4章へ行くと、アダムとエバに二人の子が生まれるという大きな喜びと祝福も東の間で、兄のカインが弟のアベルを殺害するという、死の訪れが現実となる。これはまさに、2章17節の御言葉の成就そのものである。

b. 悲劇的な子孫々々～悲劇は子から孫へと世代が進むに連れて一層拡大する。中には豎琴と笛を巧みに奏する者や青銅と鉄の用具を作る者も輩出するが、それとても、神への賛美や主に仕えるためではなく、自分を楽にするためであり、便利のため。アダムとエバ

はここに至って、改めて自分たちが犯した罪の大きさと恐ろしさに気づかされ、幾度涙したことか。

2. アダムの回復とその秘訣～しかし神は罪に陥ったアダムとエバを、直ちに罰し、見捨てて仕舞う事はなさなかった。

a. 神の憐れみと配慮～(1)墮罪後、神を恐れて身を隠したアダムとエバに、神は「あなたは、どこにいるのか」と声を掛け続け、(2)また神の御前に出るのに羞かしさを感じていた二人に、神は動物を殺して二人の罪を随い、その動物の皮で二人を装われた。(3)アダムとエバをエデンの園から逐げ、罪を持ったまま永遠に生きる事の無いようケルビムと輪と回る炎の剣を置かれた。

b. 始祖の悔改と祈り～創世記3章1節～4章24節までは、人間の墮罪による罪の発展と敷衍、その拡張と拡大の恐ろしさを見せられる。アダムとエバはなす術もなかった神の助けと憐れみを求める他になくそこに(1)涙ながらの真の悔い改めが生まれた。すると神は「死んだアダムに代わるセツという子を与えられた」(4:25)。

《セツ》とは、「置く、定める」等の意味を持ち、アダムとエバは、心から罪を悔い改めると共に、神とその御言葉に、彼らの信仰を堅く定めた事をその子の名前とした。(2)またセツにも子供が生まれ、「エノシュ」と名付けたとある。その意味は、「人」を指し、人間は弱く脆い存在で、神なしに生きて行く事の出来ない者であるとの告白を示す。(3)それはまたアダムとエバに、神への「祈り」が無く生きて行く事が出来ない事も悟らせ「人々が主の御名によって祈る事を始めた」(4:26)とき、そこに初めて信仰の回復と祝福を、もたらされる事になった事を教えられる。

(品田 与志夫)

## チーフキッズのあゆみ

橋本 弥生

「子ども達をわたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。」 ルカ 18:16

今年度のチーフキッズは1才から4才までの子ども達とママ達9組の親子が与えられスタートしました。単発で参加して下さる親子がいたり兄弟も参加したりする時など、部屋が狭く感じるほど大賑わいの日もあったりします。

キッズの一日は手遊びや絵本を読み礼拝してスタートします。お天気の日は外遊びやお散歩に出掛けます。少し遠くでも頑張って歩きます。夏は水遊び、秋は栗ひろい、冬はゆるやかな長い坂道をソリですべったり…与えられた素晴らしい環境の中で神様の創られた自然の恵みを体全体で感じています。お昼は美味しい給食で、少しずつ嫌いなものにも挑戦します。帰りは親子のスキンシップ体操。さようならをしても、そこからもうひと遊びをして帰ります。そして1回ですが、母の会をしています。子育ての悩みや疑問など、テキストを用いながら話しています。一人でかかこまず、困っていることなどを話したり、自分だけではなく同じような事で他のお母さん達も悩んでいるんだと知ることが出来るだけで気持ちが楽になりました。子育ての不安や負担を少しでも軽くして楽しみに変えられていくことを願っています。最後は祈り合って神様から助けを頂いています。

親から離れ集団生活に入る前のこの幼いわずかな時間を安心して楽しく過ごせるように、また子ども達が安心する為にはまず大好きなお母さんの心が安心するように、そんな助けが少しでも出来る場でありたいと願っています。これからはチーフキッズに集っている子ども達とそのご家庭の為にスタッフの為に祈り下されば幸いです。



イチゴ狩り…いっぱい食べたよ



お母さんといっしょに出席カード作り



天気の良い日は前庭で遊びます

